

重度知的障害のある子どもを対象とした 自己選択行動アセスメントマニュアルの作成

長 澤 正 樹

要 約

重度知的障害のある子どもの自己選択行動を教師が支援するために、自己選択行動アセスメントマニュアルと記録用紙を開発した。対応マニュアルは以下の原則に従って作成された。子どもの日常生活全般にわたり選択の機会を保障すること、子どもが現在可能な選択手段を活用すること、Bambara & Koger (1996) の方法に従い、子どもが選択できるような支援手続きを使用すること、選択後のリスク管理が可能になるよう配慮すること。最後に、重度知的障害のある人の社会的自立と自己決定について考察した。

キーワード：自己決定、自己選択、重度知的障害

Abstract

The manual and the record sheet of Choice-Making behavior assessments for teachers were developed to support Choice-Making for children with severe mental retardation. The manual was designed including these principles: ① Embed choice opportunities for daily routines, ② Support to choose by using acquired Choice-Making behaviors, teach and assess Choice-Making behaviors according to Bambara & Koger's teaching model, ③ Check risk-taking after choices. Finally, Autonomy and Self-Determination for people with severe mental retardation were discussed.

Keywords : Self-Determination, Choice-Making, Severe Mental Retardation

I 問題

自己決定 (Self-Determination)^{#1}とは、①自分自身の生命や健康・人生や生活に関するすべての事柄について、自分自身のニーズに基づき主体的に決定すること、②決定のために必要な方法を知り、目標達成と問題解決を自ら行えること、③自ら選択した生活・人生について、その結果に対して自ら責任を担うことである¹⁶⁾²⁰⁾²¹⁾。Wehmeyerら²⁴⁾は、自己決定を一つの概念としてとらえるのではなく、自律的機能 (Autonomous Functioning)、自己調節 (Self-Regulation)、心理的エンパワメント (Psychological

Empowerment)、自己実現 (Self-Realization) の4つの基本的な特性により構成されていることを示した。さらに、4つの特性を構成する12のスキルを紹介した。障害のある人にとって自己決定は重要な問題として認識され、最近では重度障害のある人を対象として含めた自己決定に関わる研究が目立つ²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹⁵⁾¹⁴⁾¹⁸⁾²⁴⁾。これらの研究を見ると、自律的機能の構成スキルである自己決定 (Decision-Making) と自己選択もしくは好み (Preference) を取り上げた研究が目立つ⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹³⁾¹⁹⁾。

Cohen-Almeidaら (2000)⁷⁾は、具体物とことばとを用いて知的障害のある子どもの好みをアセスメントとする方法を検討した。その結果、ことばによ

る好みの選択と具体物による好みの選択が高い割合で一致していることがわかった。DeLeonら(2001)⁸⁾は、発達障害のある子どもを対象とし、好みのランク付けの有効性を検証した。その手続きは、好みのリストアップ、ペア提示、好みのランク付けから好みの第1位の特定化、作業の強化子としての使用であった。Gastら(2000)⁹⁾は、最重度重複障害のある子どもに対して、好みを測定するための2分間のプレセッションアセスメントの有効性を示した。Greenら(2000)¹⁰⁾は、重複障害のある人が日常生活の中で好きなものに接近している累積時間を使って好みをアセスメントする方法を提案した。Limら(2001)¹⁴⁾は、重度障害のある人を対象とし、ベースラインで4本のジュースを順番に提示し、その後店に行ってどのジュースを選択するかという好みの変化を調査した。

一方長澤(2001)は¹⁹⁾、131名の重度知的障害のある児童生徒について自己選択行動に関する調査を実施した。食事と遊び場面に関する自己選択行動の有無、種類、わかりやすさ、支援の方法について、38名の教師に対し観察による回答を求めた。自己選択行動の種類はHughesら(1998)¹³⁾による6種類の分類に従った。その結果から以下のことが明らかになった。①回答が得られた多くの児童生徒において、食事と遊びについて自己選択が可能であると評価された、②選択の手段には食事・遊びと共に、つかむことが最も多く評価され、③教師は選択が可能になるよう様々な支援していることである。

さらに自己選択行動を保障するための課題として、自己選択できるようにする指導手続きの確立、環境設定の方法の検討、そして選択行動を補助する機器の導入が指摘された。食事指導を優先して選択の機会を確保しないなど、自己選択行動の機会の提供や応答性にいくつかの問題が見られた。同じように、Agronら(2000)¹¹⁾とWehmeyerら(2000)²⁰⁾は、教師は自己決定の重要性を認識していながらも、個別教育計画(IEP)に盛り込む割合が低いなど、実際に自己決定の指導を行っていないケースが多いことを報告した。

自己決定はいかなる発達段階にあろうと、どのような障害があろうと保障されなければならない基本的人権の一つである。自己決定が可能になるためには障害のある人に行動改善を求めるだけではなく、周囲の人間による支援が不可欠である¹⁸⁾。具体的には、周囲の人々が障害のある人の自己決定の必要性を認識し、自己決定を支援する態度を育成すること

(応答的な環境の創造)、日常生活の中で自己決定が必要とされる機会や場面を積極的に提供すること(自己決定の機会の提供)、自己決定が行われるよう支援するとともに決定の意思表示に敏感に対応すること(周囲の応答性の向上)が考えられた²¹⁾⁴¹⁾¹⁷⁾²²⁾。

さらに、自己決定を保障するための指導プログラムや教師を対象とした指導プログラムの必要性も指摘されている²¹⁾²³⁾²⁶⁾。Testら(2000)²¹⁾は、中学校教師の41%が自己決定を教えるための訓練が十分受けていないことを指摘し、自己決定を教えるための教材やカリキュラムを紹介した。Wehmeyerら(2001)²⁰⁾は、教師向けの自己決定を促進する教授モデル(The Self-Determined Learning Model of Instruction)を提案した。このモデルは、問題解決のための目標設定、問題解決のモニタリング、結果の自己評価と計画の修正という3つのフェイズから構成されている。さらに、生徒が自分の力でこれらが実施できるための教師の目標と支援が記載されている。しかし我が国では総合的な学習を通して自己決定を育成する教育が始まり、様々な指導書が出版されたが、重度知的障害のある児童生徒の自己選択を指導するための教師向けの指導プログラムはほとんど見られない。

そこで本研究では、重度知的障害もしくは重度身体障害のある児童生徒を対象とし、教師が児童生徒の自己選択を保障するための指導マニュアル(自己選択行動アセスメントマニュアル)を開発した。マニュアルは、以下の原則に基づいて作成した。

- ①児童生徒の日常生活全般にわたり、選択の機会を保障すること
- ②児童生徒が現在可能である選択手段を活用すること
- ③ Bambara & Koger (1996)⁴⁾に基づき、選択が可能となる手続きを導入すること
- ④選択後のリスク管理が可能になるよう配慮すること

II 自己選択行動アセスメントマニュアルと記録用紙

自己選択行動アセスメントマニュアルは次の3部により構成されている。

1. 自己選択行動アセスメントマニュアル(図1)
子どもの自己選択行動を調査するためのマニュアルである。単に自己選択行動を調査するのではな

I 自己選択

アセスメント項目	結果の記入	考えられる対応
1. あなたが担当するお子さんは、いつもどんなときに（どんな場面）自分の好きなものややりたい活動を選んだり決めたりしますか。あるいは、子どもが選んだほうがよいと思われる場面はありますか。（選択場面）	◇いつも選んだり決めたりする場面をアセスメントの「選択場面」に書いて下さい。当てはまる場面をすべて書いて下さい。 ○「考えられる対応」の①を読みましよう ●選択場面がないと書いた方は、②を読みましよう	①他に考えられる場面はありませんか？ ②自分で選んだり決めたりする方がいいと思われる場面はありませんか？
2. あなたが担当するお子さんは、どんな手段で選びますか。1. で答えた場面ごとに調べて下さい。（選択手段）	◇1. で答えた場面ごとに手段を調べて「選択手段」に書いて下さい。 ○選択できる（手段） a) ことばで訴える b) 身振りサインや絵カードで訴える c) 機器を使って訴える d) 欲しい物をつかむ e) 与えると受け入れる f) 自分から接近していく g) 関わっている頻度が高い h) その他（視線、発声） ○「考えられる対応」の③を読みましよう。 ●選択することはできないと書いた方は、④を読みましよう。	③その手段で選んだと判断したなら、その後の子どもの様子を観察しましょう。選んだものに満足していますか。本当にその手段で選んだと見なして良いですか。 ④本当に自分で選ぶことはできませんか。もう一度子どもの様子を注意深く観察しましょう。違う手段では選べませんか。 子どもの気に入ると思われるものを二つ用意し、子どもにわかりやすいように提示して様子を見て下さい。どうやって選ぶのでしょうか。
3. 自分で選べるために、あなたはどんな工夫や支援をしていますか（提示方法・支援）。	◇選んできたかできなかったか、「結果」の欄に書いて下さい。 ○選んできたよう支援したと書いた方は、支援の内容を「工夫」の欄に書いて下さい。 ●一人で選んできなと書いた方は、「考えられる対応」の⑤を読みましよう。	⑤自分で選べるための工夫 ●提示の仕方工夫 ①気に入ると思われる選択肢をいくつか用意します ②順番に与えたり体験させたりします ③その中の2つを提示し、選択させたりします ④どちらも選択しなかったべアは片方を変えて提示します。あるいは別の機会にもう一度試ましよう。「どちらも同じくらい好き」「どちらも嫌い」の場合が考えられます。 ●支援の工夫 ①指さして教える ②選択肢を見やすくする ③自分で選ぶまで数秒待つ
4. 自分で選んだときは、選択したときに選んだものを与えていますか（対応）。	◇選んだときの自分の対応を見て下さい。 ●確認の意味でもう一度選択するように指示している方は、「考えられる対応」の⑥を読みましよう。 ○即座に選択したものを与えたり、要求をかなえている	⑥選んできたときにはすぐに要求に応じてあげましよう。 ◇提示してみたがどちらも選択しなかったときは、「提示の仕方工夫」の④を試してみましよう。

II リスクの管理

アセスメント項目	結果の記入	考えられる対応
1. その選択肢の中に、危険なものあるいは不適切な選択肢はありますか	●選択すると本人に不利益を被る可能性のある選択肢や、場にとぐわれない選択肢がある ○ない。選択してもすべて差し支えない選択肢である	●選択すると本人が不利益を被る可能性のある選択肢や、場にとぐわれない選択肢は、本人に事情を説明して選択しないように指導ましよう。
2. 危険な選択肢を選択した場合のリスクを説明していますか（選択した場合、どういう結果になるか説明していますか）	●説明していない ○説明している	●危険な選択肢を選択した場合（自分で決定した場合）、そのリスクをきちんと説明ましよう。
3. リスクを理解できますか（選択した場合、どういう結果になるかわかっていますか）。また、リスクへの対処の仕方を知っていますか	●理解できない ◆理解できるが、対処の仕方を知らない ◇理解できるし、対処の仕方を知っているが、実際には対処できない ○理解できるし、対処の仕方を知っているし、実際に対処できる	●理解できない場合、選択肢からリスクを伴う選択肢をはずましよう。はずすことができない場合、安全管理を十分に行いましよう。 ◆対処の仕方を説明し、一緒に練習ましよう ◇対処の仕方を練習ましよう ・ロールプレイなど

図1 自己選択行動アセスメントマニュアル

く、より選択の機会を確保し保障することを促している。

(1) 自己選択アセスメント

自己選択アセスメントは、選択場面（選択の機会）、選択手段、提示方法と支援、結果それぞれについて現在の実態（結果）と、その結果への対応を提示した。

(2) リスクの管理

リスクの管理では、選択肢の中の危険なもの点検、子どもへの説明、説明の理解それぞれについて現在の実態（結果）と、その結果への対応を提示した。

2. 自己選択行動アセスメントの流れ（図2）

自己選択行動アセスメントをどのように実行するのかを流れ図で示した。

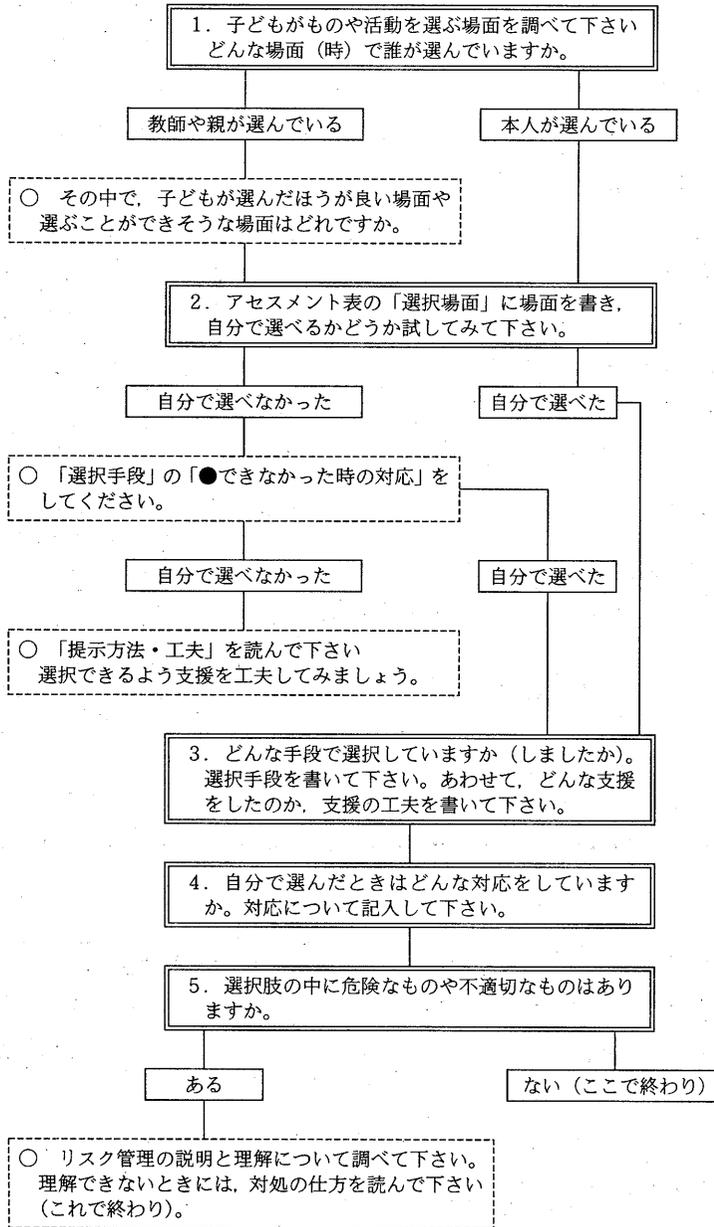


図2 自己選択行動アセスメントの流れ

3. 自己選択行動アセスメント（用紙）（図3）

自己選択行動アセスメントの記録用紙である。選択場面、選択手段、結果、工夫、リスクの有無、説

明、理解の7項目で構成されている。記録しやすいよう記録の例を最初に示した。

記入日：平成 年 月 日
 対象児童生徒名：
 障害名：
 障害の程度：軽度・中度・重度
 記入者名：

選択場面	選択手段	結果	工夫	リスクの有無	説明	理解
自由遊び 食事 係り活動 授業 作業 等、場面と、選択している場合は◎、選択することが適切だと考えられる場面は○を書いて下さい。	●選択できない ○選択できる ことばで訴える 声で訴える 身振りサイン 視線 絵カード コミュニケーション機器 欲しい物をつかむ 与えると受け入れる 自分から接近していく 関わる頻度が高い	○自分で選択できた（選択していた） ◎選択できるよう支援した ●支援したが選択できなかった	○支援の工夫 ことばかけ 指さし 選択肢を見やすくする 選択肢を減らす 絵や写真カードを提示する 選ぶまで待ってみる ◎選択のための指導をした（「選択の指導を参照した」）	○選択肢に危険なものはない ●選択肢に危険なものがある	○リスクを説明した ●リスクを説明しなかった	○リスクを理解できた ●リスクを理解できなかった ◎リスクへの対処の仕方を指導した

*「選択のための指導」

- ①気に入ると思われる選択肢をいくつか用意する。
- ②順番に与えたり、体験させたりする。
- ③その中の二つの提示、選択するよう促す。
- ④どちらも選択しなかったペアは片方を変えて提示する。あるいは別の機会にもう一度試みる。

選択場面	選択手段	結果	工夫	リスクの有無	説明	理解

図3 自己選択行動アセスメント（用紙）

III 考察と今後の課題

先行研究から得られた知見から、「自己選択行動アセスメントマニュアル」及び「記録用紙」を作成した。今後の課題はマニュアルを実際に使用し、マニュアルの内容や様式、記録用紙の妥当性を検証することである。そのためには、マニュアル使用のプリテストとポストテストのデータを収集すること、教師によるアセスメントマニュアルに対する意識を調査することが考えられる。

障害のある人の社会自立のための訓練プログラムとして、Hellerら(1999)¹¹⁾はLater-life Training Programsを開発した。彼らによると社会自立に必要な条件は、社会参加に関する情報の提供、自己選択・自己決定・自己解決の促進、生活の中で様々な目標を設定することを援助すること、社会参加による充実感を増やすことである。自己選択行動の獲得と自己選択の保障は自己決定を実現する基本条件である。重度知的障害のある子どもの社会自立に向けて、自己決定の保障とそのための訓練を、本人のみならず指導する側(教師、親)にも実施することが必要である。今回開発した自己選択行動アセスメントマニュアルや教師向けの自己決定を促進する教授モデル²⁰⁾などの活用を通して、指導者側の改善がさらに求められる。

自己選択行動を獲得していない(自己選択行動が微弱な)最重度障害のある人に対しては、彼らの自己選択行動を明確にすること、行動を強めること、そしてよりわかりやすい行動を獲得するよう援助することが考えられる。その場合さきに紹介したDeLeonら(2001)⁸⁾やGreenら(2000)¹⁰⁾などの好みを調査する様々なテクニックを活用することは、最重度障害のある人の自己選択行動の獲得(保障)に効果が期待できる。

注1:英訳が添えられていない「自己決定」はSelf-Determinationである。

<文献>

- 1) Agran, M., Blanchard, C. and Wehmeyer, M. L. (2000) : Prompting transition goals and self-determination through student self-directed learning : The self-determined learning model of instruction. *Education and Training in Mental retardation and Developmental Disabilities*, 35(4), 351-364.
- 2) Agran, M., Snow, K. & Swaner, J. (1999). Teacher perceptions of self-determination : benefits, characteristics, strategies. *Education and Training in Mental Retardation and Developmental Disabilities*, 34(3), 293-301.
- 3) Bambara, L., Cole, C. L. & Koger, F. (1998). Translating self-determination concepts into support for adults with severe disabilities. *The Journal of The Association for Persons with Severe Handicaps*, 23(1), 27-37.
- 4) Bambara, L. M. & Koger, F. (1996). Embedding choice opportunities across daily routines. Browder, D. (Ed.) : *Opportunities for Daily Choice-Making*. ANNOVATIONS, 8. American Association on Mental Retardation, pp. 23-31.
- 5) Browder, D. M., Cooper, K. & Lim, L. (1998). Teaching adults with severe disabilities to express their choice of settings for leisure activities. *Education and Training in Mental retardation and Developmental Disabilities*, 33(3), 228-238.
- 6) Brown, F., Gothelf, C. R., Guess, D. & Lehr, D. H. (1998). Self-determination and individuals with the most severe disabilities : Moving beyond chimera. *The Journal of The Association for Persons with Severe Handicaps*, 23(1), 17-26.
- 7) Cohen-Almeida, D., Graff, R. B. and Ahearn, W. H. (2000) : A comparison of verbal and tangible stimulus preference assessments. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 33(3), 329-334.
- 8) DeLeon, I. G., Fisher, W. W., Rodriguez-Catter, V. M. K. H. K. & Marhefka, J. (2001) : Examination of relative reinforcement effects of stimuli identified through pretreatment and daily brief preference assessment. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 34(4), 463-474.
- 9) Gast, D. L., Jacobs, H. A., Logan, K. R., Murray, A. S., Holloway, A. and Long, L. (2000) : Pre-session assessment of preferences for students with profound multiple disabilities. *Education and Training in Mental retardation and Developmental Disabilities*, 35(4), 393-405.
- 10) Green, C. W., Middleton, S. G. and Reid, D. H. (2000) : Embedded evaluation of preferences sampled from person-centered plans for people

- with profound multiple disabilities. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 34(4), 639-642.
- 11) Heller, T., Miller, A. B. and Factor, A. (1999) : Autonomy in residential facilities and community functioning of adults with mental retardation. *Mental Retardation*, 37(6), 449-457.
 - 12) Hughes, C. & Agran, M. (1998). Introduction to the special section : self-determination : signaling a systems change? *The Journal of The Association for Persons with Severe Handicaps*, 23(1), 1-4.
 - 13) Hughes, C., Pitkin, S. E. & Lorden, S. W. (1998). Assessing preferences and choices of persons with severe and profound mental retardation. *Education and Training in Mental retardation and Developmental Disabilities*, 33(4), 299-316.
 - 14) Lim, L., Browder, D. M. & Bambara, L. (2001) : Effects of sampling opportunities on preference development for adults with severe disabilities. *Education and Training in Mental Retardation and Developmental Disabilities*, 36(2), 188-195.
 - 15) Lohrman-O' Rourke, S. & Browder, D. M. (1998). Empirically based methods to assess the preferences of individuals with severe disabilities. *American Journal on Mental Retardation*, 103(2), 146-161.
 - 16) Martin, J. E. & Marshall, L. H. (1995). Choice Maker : A comprehensive self-determination transition program. *Intervention in School and Clinic*, 30, 147-156.
 - 17) Maureen, E. W. & Dattilo, J. (1995). Creating option-rich learning environments-Facilitating self-determination. *The Journal of Special Education*, 29 (3), 276-294.
 - 18) 望月昭 (1996). 発達障害リハビリテーションの実践・研究について—自己決定の援助技術を中心に—. *発達障害研究*, 17, 279-282.
 - 19) 長澤正樹 (2001) : 重度知的障害のある児童生徒を対象とした自己選択の実態—養護学校における食事と遊び場面に基づく調査研究—. *発達障害研究*, 23(1), 54-62.
 - 20) 鈴木勉 (1997). 自己決定. 茂木俊彦 (編) : *障害児教育大辞典*. 旬報社, pp. 281-282.
 - 21) Test, D. W., Karvonen, M., Wood, W. M., Browder, D. and Algozzine, B. (2000) : Choosing a self-determination curriculum. *TEACHING Exceptional Children*, 33(2), 48-54.,
 - 22) Wall, M. & Dattilo, J. (1995). Creating option-rich learning environments-Facilitating self-determination. *The Journal of Special Education*, 29(3), 276-294.
 - 23) Wehmeyer, M. L. (2001) : Self-determination and mental reterdation. Glidden, L. M. (Ed.) : *International Review of Research in Mental Reterdation*, 24. Academic Press.
 - 24) Wehmeyer, M. L. Agran, M. & Hughes, C. (1998). Self-determination as an education and transition outcome. Wehman, P. (Ed.) : *Teaching Self-Determination to Students with Disabilities*. Paul. L. Brookes Publishing Co., pp. 3-29.
 - 25) Wehmeyer, M. L. Agran, M. & Hughes, C. (2000) : A national survey of teachers' promotion of self-determination and student-directed learning. *Journal of Special Education*, 34(2), 58-68.
 - 26) Wehmeyer, M. L., Palmer, S. B., Agran, M. & Martin, J. E. (2001) : Promoting causal agency : The self-determined learning model of instruction. *Exceptional Children*, 66(4), 439-453.